

法の変化に伴う衿の中心から首までの距離、衿の角度、背中心における衿付点の変化などについて検討を加えた結果を報告する。

B-105 くりこしの寸法についての一考察

四天王寺女子短大 井口 久つ
藤本 ヤツ
○徳田 明子

和服を仕立てる際の各部位の出来上り寸法は着用者の体格によって、当然おのおの違ってくるものと思われる。

本実験は着用者の体格によって、出来上り寸法をどの程度にしたらよいかを検討するために、その最初として、くりこしの寸法について検討を加えたものである。

着用試験には胸囲 76cm から 87cm までの 5 種類の標準体ポディーを使用し、試料として、ウール並幅着物地を用い、衿肩明、衿付方法を一定にし、また着用の際の衿の打合せ、腰紐のしめ方なども一定に行なった。くりこしの寸法 0 cm から 7 cm までの 7 種類の試料について、おのおの着用試験を行なった結果、くりこしの寸